

6. バッタ目

現地調査では、金井海生・金井忠夫・松村雄・佐藤光一・多和田潤治・渡辺剛太郎・渡邊忠雄の各氏から御協力をいただいた。また、とちぎ昆虫愛好会会員の園部力雄氏には、多くの種について同定の労を賜った。心より感謝申し上げる。なお、一部の中・大型種は、筆者が同定・確認した。

(1) バッタ目の生息状況

栃木県内からは、園部（2003）により 12 科 109 種 1 亜種のバッタ類が記録されている。なお、日本直翅類学会編（2006）の直翅目分布表によれば、近年の高次分類に基づいて、県内から 16 科 112 種が記録されている（疑問種とされるタンザワフキバッタを含む）。

本調査では、文献記録を含め 10 科 56 種が確認された。このうち、文献記録のみの種が 5 科 17 種である（表Ⅶ-6-(1)-1）。この結果、西那須野・塩原地区からは栃木県産バッタ類のうち、約 51% の生息が記録されたことになる。

調査地内には、バッタ類の発生に適した樹林や草地が、広範囲に点在している。調査期間が短かったことや近隣地区の状況を勘案すると、追加記録される可能性が高い種類も少なからずある。今後も綿密な調査が望まれる。

【表Ⅶ-6-(1)-1 バッタ目の科別種数一覧】

科名※1	本調査地の生息種	調査確認	(文献記録のみ)	
カマドウマ科	2	1	(1)	
コロギス科	1	1		
キリギリス科※2	18	12	(6)	
コオロギ科※3	13	5	(8)	
ケラ科	1	1		
ノミバッタ科	1	1		
オンブバッタ科	1	1		
イナゴ科※4	5	5		
バッタ科	10	9	(1)	
ヒシバッタ科	4	3	(1)	
計	10 科	56 種	39 種	(17) 種

※1 科の分類と配列は園部（2003）に準じた。

※2 近年細分されたササキリモドキ・クツワムシ・ツユムシ科を含む。

※3 近年細分されたマツムシ・ヒバリモドキ科を含む。

※4 近年はバッタ科に含める見解が示されている。

確認種の特徴を、主に環境区分によって概観する。

平野部の市街地や里山では、カマドウマ科のマダラカマドウマ、キリギリス科のアシグロツユムシ・セスジツユムシ・サトクダマキモドキ・ヤブキリ、コオロギ科のタンボオカメコオロギ・エンマコオロギ、ケラ科のケラ、ノミバッタ科のノミバッタ、バッタ科のショウリョウバッタ・イボバッタなどが優占している。

緑地が豊かに保たれていれば、人家の庭先でもマダラカマドウマ・サトクダマキモドキ・エンマコオロギ・ノミバッタ、イボバッタなどが、経年的に発生している。里山的環境が温存されていれば、林縁の灌木上などにアシグロツユムシ・セスジツユムシ・ヤブキリなども生息する。ショウリョウバッタはシバ型草地の環境が整っていれば街中の公園や墓地周辺にも生息地が多い。一方、ケラは一昔前までは西那須野地区の市街地に位置する民家の庭先でも発生していた。しかし、道路の舗装化、宅地の密集化に伴って激減している。近年では郊外の里山的環境でないと、中々観察でき

なくなった。

烏ヶ森公園、那須野が原公園のシバ型草原や林縁草地には、キリギリス科のハヤシノウマオイ・ヒメクサキリ・ホシササキリ・オナガササキリ・コバネヒメギス、コオロギ科のツヅレサセコオロギ・モリオカメコオロギ・ハラオカメコオロギ・タンボオカメコオロギ、バッタ科のトノサマバッタ・クルマバッタモドキなど多くの種が記録されている。この中でコオロギ科各種が優占しており、公園に設置された遊具やベンチ、建造物の周辺でも多数の個体が確認できる。

次に分布が限られる種や、注目される種について概要を述べる。

ムツセモンササキリモドキは、近年の高次分類でササキリモドキ科に属するとされる。本種は、園部（2003）には記録されていないが、日本直翅類学会編（2006）によれば本州と四国に分布し、栃木県も分布地として記載されている。本州では東北地方では分布が広いが、それ以南では新潟県北部、栃木県奥日光、茨城県北部、埼玉県秩父山地などに、局地的に記録されているにすぎないとされる。今回の調査では上塩原（2008年10月14日、14♂10♀、松村雄）から記録され、県内2例目の生息地となった。分布上注目される。

ホソクビツコムシは近似種と同様、林縁の灌木上などに生息する。平地にも分布するが、低山地以上で個体数が多くなる。ヒガシキリギリスは山地の林縁に生息地が確認されているが、烏ヶ森公園にも小規模な個体群が発生している。カンタンはクズなどで構成された、草丈の高い藪を好んで生活する。比較的標高の高い山地帯まで分布するが、分布はやや偏在する傾向がある。

ヒメフキバッタは本州に分布するが、産地は新潟県以西、京都府以東の限られた都府県に知られる（日本直翅類学会編：2006）。今回の調査では千本松（2006年5月25日、1♂、佐藤光一）、中塩原（2008年9月4～10日1♂、松村雄：マレーズトラップ法による）から生息が確認され、黒磯地区に次いで県内2・3例目の記録となった。

コバネイナゴは平野部の水田周辺に多く、イネ科植物を食害し時に多発することがある。佃煮に利用され、古くから重要なタンパク源として捕獲の対象となっている。

カワラバッタは種名のとおり河原に特徴的に生息し、調査地内でも蛇尾川から記録された。生息地は局地的傾向が強いが、発生地での個体数は多い。箒川では未記録であるが、生息しているものと推測される。

（2）保全すべき種

ここでは、保全すべき種として2種を選定した。しかし、西那須野・塩原地区に生息するバッタ類には栃木県内の分布状況を勘案すると、他にも「保全すべき種」に相当する種が確認されている。この点には十分留意していただきたい。なお、各種の国内分布や生態などの解説の一部は日本直翅類学会編（2006）に拠った。

また、「環境省レッドリスト（2007）」及び「レッドデータブックとちぎ（2005）」で選定されている種類は、種名のあとにカテゴリーを示した。

①ヒメフキバッタ（イナゴ科※5） 環境省：一、栃木県：要注目

本州（新潟、栃木、群馬、埼玉、東京、長野、山梨、静岡、富山、岐阜、石川、福井、滋賀、三重、京都の各都府県）に分布する。他のフキバッタ類よりも出現期が遅く、北向き斜面や陰湿な林内や林縁に多いとされる。県内では黒磯市湯宮萩平（現、那須塩原市）が唯一の既知産地（1996年10月30日、4♂・6♀、園部力雄）であった。

調査地内では、千本松と中塩原から確認（データは前掲）された。県内では現在までの知見で、那須塩原市のみ産することになる。今後の継続的な調査が必要である。

※5 近年はバッタ科に含める見解が示されている。

②カワラバッタ（バッタ科） 環境省：一、栃木県：要注目

北海道、本州（含：隠岐）、四国、九州に分布する、日本特産種。体色が灰青色で河原の小石と紛

らわしく、隠蔽擬態の好例として知られる。後翅の内側は鮮やかな青色を呈している。中流域に氾濫原を残す河川でしか見られなくなったとされる。

調査地内では、蛇尾川の河原で確認されているが、箒川流域にも生息するものと予測される。河川環境の整備や河辺草地の衰退・減少から、近年県内各地で激減している。環境指標として重要な種類であり、今後の動向に注意する必要がある。

(3) 注目すべき種

注目すべき種は選定しなかったが、それに相当すると判断される種については、生息状況の項で概要を述べた。

(文責：渡辺 剛)

【目録】

※科の分類、科・種の配列、和名・学名に関しては、概ね園部（2003）に準じた。なお、ムツセモンササキリモドキについては、日本直翅類学界編（2006）を引用した。
 ※生息確認種と生息エリアは、今回の現地調査結果及び那須野が原博物館所蔵の標本に基づいた。
 ※筆者らが未確認の種は、文献記録から引用した。

科名	和名	学名	A 地域	B 地域	C 地域	山岳 地域
バッタ目						
カマドウマ科	マダラカマドウマ	<i>Diestrammena japonica</i> Blatchley			□*1	
	コノシタウマ	<i>Tachycines elegantissimus</i> (Griffini)		○	□*1	○
コロギス科	コロギス	<i>Prosopogryllacris japonica</i> (Matsumura et Shiraki)				○
キリギリス科	アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera</i> <i>nigroantennata</i> Brunner v. W.		□*1	○	
	セスジツユムシ	<i>Ducetia japonica</i> (Thunberg)	○	○	○	
	ホソクビツユムシ	<i>Shirakisotima japonica</i> (Matsumura et Shiraki)	○		○	□*1
	ムツセモンササキリモ ドキ	<i>Nipponomeconema</i> <i>mutsuense</i> Yamasaki				○
	サトクダマキモドキ	<i>Holochlora japonica</i> Brunner v.W.	○			
	ハヤシノウマオイ	<i>Hexacentrus hareyamai</i> Furukawa			□*1	
	ヒメクサキリ	<i>Ruspolia jezoensis</i> (Matsumura et Shiraki)		○	□*1	
	クサキリ	<i>Ruspolia lineosa</i> (Walker)		○		
	ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i> (le Guillou)			□*1	
	オナガササキリ	<i>Conocephalus gladius</i> (Redtenbacher)			□*1	
	ウスイロササキリ	<i>Conocephalus chinensis</i> (Redtenbacher)			○	
	ササキリ	<i>Conocephalus melas</i> (de Haan)			○	
	コバネヒメギス	<i>Metrioptera bonneti</i> (Bolivar)			□*1	
	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti</i> <i>subtropica</i> Bey-Bienko			○	○
	ヒガシキリギリス	<i>Gampsocleis mikado</i> Burr		○		○
ヤブキリ（長鳴き型）	<i>Tettigonia orientalis</i> Uvarov			□*1	□*1	

科名	和名	学名	A 地域	B 地域	C 地域	山岳 地域
(キリギリス科)	ヒメツコムシ (コガタ ササキリモドキ)	<i>Leototeratura albicornis</i> (Motschoulsky)			<input type="checkbox"/> *1	
	ヒメヤブキリモドキ (キタハダカササキリ モドキ)	<i>Tettigoniopsis forcipicercus</i> Yamasaki				○
コオロギ科	ツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus micado</i> (Saussure)		<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/> *1	
	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i> Matsuura		<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/> *1	
	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i> Matsuura		<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/> *1	
	タンボオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus aomoriensis</i> Shiraki		<input type="checkbox"/> *1		
	ミツカドコオロギ	<i>Loxoblemmus doenitzi</i> Stein		○		
	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i> (Ohmachi et Matsuura)		○	○	
	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i> Matsumura			○	
	ヤマトヒバリ	<i>Homoeoxipha obliterated</i> (Caudell)			<input type="checkbox"/> *1	
	キアシヒバリモドキ	<i>Trigonidium japonicum</i> Ichikawa			○	
	ヤチスズ	<i>Pteronemobius ohmachi</i> (Shiraki)			○	
	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i> (Matsumura)		<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/> *1	
	カワラスズ	<i>Dianemobius furumagiensis</i> (Ohmachi et Furukawa)			<input type="checkbox"/> *1	
	シバズ	<i>Polionemobius mikado</i> (Shiraki)	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/> *1	<input type="checkbox"/> *1	
ケラ科	ケラ	<i>Gryllotalpa orientalis</i> Burmeister			○	
ノミバッタ科	ノミバッタ	<i>Xya japonica</i> (de Haan)	○			
オンブバッタ科	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i> (Motschoulsky)		○	○	
イナゴ科	コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i> Shiraki		○	<input type="checkbox"/> *1	
	ハネナガフキバッタ	<i>Ognevia longipennis</i> (Shiraki)			○	
	アオフキバッタ	<i>Aopodisma subaptera</i> (Hebard)				○
	ヒメフキバッタ	<i>Parapodisma etsukoana</i> Kobayashi			○	○

科名	和名	学名	A 地域	B 地域	C 地域	山岳 地域
(イナゴ科)	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma setouchiensis</i> Inoue				○
バッタ科	ショウリョウバッタ	<i>Acrida antennata</i> Mistshenko		○		
	トノサマバッタ	<i>Locusta migratoria</i> (Linnaeus)	○	○	○	○
	クマルマバッタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i> Saussure		○	○	
	イボバッタ	<i>Trilophidia japonica</i> Saussure		○	○	
	カワラバッタ	<i>Eusphingonotus japonicus</i> (Saussure)	○	○		
	イナゴモドキ	<i>Mecostethus alliaceus</i> (Germar)				○
	ツマグロイナゴモドキ	<i>Stethophyma magister</i> (Rehn)			○	○
	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i> (Bolivar)			○	
	ヒロバネヒナバッタ	<i>Megaulacobothrus latipennis</i> (Bolivar)			□*1	□*1
	ヒナバッタ	<i>Chorthippus biguttulus</i> <i>maritimus</i> Mistshenko	○			
ヒシバッタ科	ハネナガヒシバッタ	<i>Euparatettix insularis</i> Bay-Bienko		○	○	
	ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i> (Bolivar)			□*1	□*1
	ヤセヒシバッタ	<i>Tetrix macilenta</i> Ichikawa			○	
	コバネヒシバッタ	<i>Formosatettix larvatus</i> Bey-Bienko		○	○	

【参考文献・引用文献】

※目録に引用した文献は、末尾に*を付している。

平嶋義宏・森本桂監修，2008．新訂 原色昆虫大図鑑 第Ⅲ巻（トンボ目・カワゲラ目・バッタ目・カメムシ目・ハエ目・ハチ目 他）．北隆館，654pp．

環境省，2007．昆虫類レッドリスト．絶滅危惧種情報，環境省ホームページ．

日本直翅類学会編，2006．バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑．北海道大学出版会，x x x vi + 687pp．

園部力雄，1998．11 ガロアムシ目・バッタ目・ハサミムシ目・カマキリ目・アミメカゲロウ目・シリアゲムシ目・ハチ目アリ科．黒磯市動植物実態調査研究会（編）．黒磯市動植物実態調査報告書．黒磯市動植物実態調査研究会，pp. 404-412．

園部力雄，2003．バッタ目 Orthoptera．栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫Ⅰ．栃木県林務部自然環境課，pp. 112-129．*1

栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編，2005．レッドデータブックとちぎ．栃木県，898pp．